

遺跡の概要

立野遺跡は、和歌山県西牟婁郡^{にしおるぐん}すさみ町^{すさみ}周参見の平野に所在します。この遺跡は、昭和 51 年に発見され、弥生時代から古墳時代の遺跡として知られるようになりました。すさみ町では、こうした原始・古代の遺跡は少なく、この他、弥生時代から古墳時代の^{おどまり}小泊遺跡や古墳時代後期の^{かみやま}上ミ山古墳が知られるのみです。その他、戦国時代の^{かんだ}神田城、^{なかやま}周参見城、^{ふじわら}中山城、^{ふじわら}藤原城などがあります。



遺跡位置図

調査成果

近畿自動車道紀勢線建設並びにすさみ町公共施設移転事業に伴い平成 22 ～ 26 年度に発掘調査が実施され、弥生時代から中世にかけての多くの重要な遺構が発見されました。なかでも、平成 22 年度調査で発見された弥生時代前期の流路（遺構 302）は、最も貴重な成果です。この流路からは、土器や石器、木製品などが多量に出土しました。こうした調査成果から、弥生文化の一部を受け入れた人々が、恵まれた森林資源と可耕地を求めてこの地に入植し、弥生時代前期に流路の傍に居を構え、木製品を製作しながらその周辺で水田稲作や狩猟、漁労などを行って生活していたと推測されます。また、出土した土器の様相から、他地域との間には海を通じた活発な交流があったとみられ、立野遺跡の人々は、この地の木製品などをこうした交流に用いていた可能性も想定されます。立野遺跡は、まさに「木の国」の源流となりえる重要な遺跡といえるでしょう。なお、出土遺物の一部はその重要性を評価され、「立野遺跡出土品」として平成 29 年 3 月に**県指定文化財**になりました。



調査区遺構模式図

編集・発行元：公益財団法人和歌山県文化財センター
〒 640-8401 和歌山市岩橋 1263 番地の 1 TEL：073-472-3710 FAX：073-474-2270
発行日：2018 年 3 月 30 日 印刷：初田印刷株式会社

 平成 29 年度和歌山県内地域の特徴ある埋蔵文化財活用事業の補助金を受けて作成しました。

和歌山県の文化財 ③



立野遺跡

すさみ町

木の国の源流——弥生時代前期の木製品製作遺跡——

たちのいせき

2018

公益財団法人 和歌山県文化財センター

弥生時代前期の流路

流路（遺構 302）は、平野部西側の山裾に沿って北から南に流れていたとみられ、時期は出土遺物から**弥生時代前期**と考えられます。流路の規模は幅 15 m以上、深さ 1.2 ～ 1.5 mで、延長 100 m以上にもなる大規模なものです。この流路からは、木製品製作用の木材と推定される**大量の自然木**とともに**多量の土器**（出土遺物①）、**石器**（同②）、**木製品**（同③）が出土しました。また、流路の埋土を観察すると、明確な流れが認められないことなどから、流路を堰き止めて**貯木施設**としていた可能性も考えられます。これらのことから、立野遺跡では流路周辺の自然木から木材をえて、堰き止めた流路でその木材又は未成品を水浸けで保管し、それらを取り出して、石器などを使って木製品を製作していた情景が浮かび上がってきます。しかし、こうした木製品製作も、流路の流水や頻度の高い岸边木材の伐開などによる肩崩れにより、流路が一気に埋没して停止・中断されたようです。



出土遺物① ◆土器◆

土器は、弥生時代前期の土器が出土しており、主に遠賀川系の弥生土器の壺と縄文土器の系譜にある突帯文土器の深鉢、鉢、壺があります。このうち、弥生土器は**県内最古段階**のものです。同時期の弥生土器は、立野遺跡のほかに御坊市堅田遺跡や日高郡みなべ町徳蔵地区遺跡などからも出土していますが、これらの遺跡では弥生土器の甕や鉢とともに突帯文土器の深鉢も使っています。一方、立野遺跡では煮炊き用の土器が突帯文土器の深鉢のみであるなど、弥生文化の取り入れ方には異なる部分があります。このことから、紀南地域は、弥生時代前期に弥生土器の甕を使わない地域であった可能性があります。また、弥生時代前期の土器が出土する県内の他の遺跡同様、立野遺跡でも東海地方をはじめ東日本や北陸地方、中部瀬戸内などでつくられて運ばれたとみられる土器が出土しており、広範な地域と海運を通じて活発に交流していたことがわかります。



弥生土器



突帯文土器 ※片山遺跡出土



紀伊北部又は阿波地域の土器



東海地域の土器

出土遺物② ◆石器◆

石器には、木製品製作に使われたとみられる削器・刃器や楔形（両極）石器、石器を割るためハンマーとして使用されたとみられる敲石が多く確認されており、その他、打製・磨製石斧、石棒なども出土しています。一方、狩猟や漁労に用いたと考えられる石鏃や石錘、水田稲作に伴う磨製穂摘具は遺跡全体でみても数点しか確認されおらず、立野遺跡の石器は、木材又は木製品製作用の石器に偏重する傾向がみてとれます。また、石材としては香川県金山産とみられるサヌカイト、頁岩、砂岩、結晶片岩が使用されていますが、とりわけ地元産の**頁岩**を多く使って石器をつくっています。これは紀南地域の他の遺跡でも同様で、この地域の特徴かもしれません。



削器・刃器（頁岩）



楔形石器（頁岩）



敲石（砂岩）



打製石斧（頁岩）



磨製石斧（頁岩）



磨製穂摘具（頁岩）



石鏃（サヌカイト）



石鏃（頁岩）



石棒（結晶片岩）

出土遺物③ ◆木製品◆

木製品には、工具（斧膝柄・直柄等）、農具（鋤や泥除、刈払具等）、狩猟具（弓、矢）、食事具（匙、竪杓子等）、舟形などの容器、建築部材（梯子、柱材、垂木等）、織り機の一部である布送具など多種多様なものがあります。これら木製品のうち、**漆塗りの弓**や**刈払具**、**布送具**は大変珍しくとても貴重な資料です。また、木製品の樹種は、主に舟形容器やその他容器、板、割材、泥除のクスノキが最も多く、建築部材や割材、棒、弓状の材として多いマキ属と板として多いスギ、平鋤として多いイスノキ、板として多いヒノキと続きます。立野遺跡では、用途に適応した樹種選択を行い、適切な樹木を持続的に供給して、幾種類もの木製品を製作していたと考えられます。



斧膝柄



斧直柄



平鋤



広鋤



泥除



匙



布送具

舟形容器



刈払具



弓